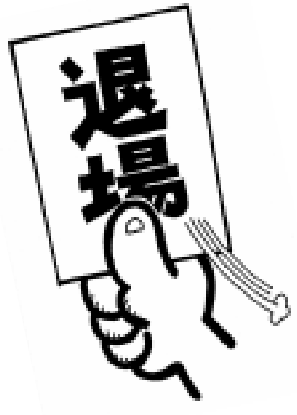
海外派兵すすめ、憲法改悪めざした

自公政権が惨敗



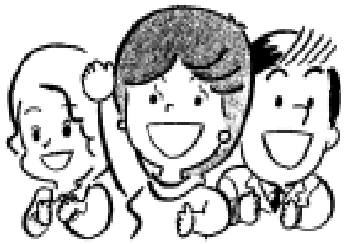
新政権のもと 憲法9条守る世論さらに大きく

8月30日投票の総選挙結果は、民主党が大勝し、自民・公明が歴史的惨敗を喫し、新たに民主党中心の政権が発足することになりました。

まともな政治を求める国民の声が切り開いた勝利

これは、自公政権への国民の不満と批判が爆発した結果です。自公政権は、大企業やアメリカの要求を最優先し、雇用も福祉も営業も破壊し、国民生活を危機的状況に追い込みました。

平和の問題では、日米軍事同盟を最優先し、無法なイラク戦争を支持、海外派兵をすすめ、米軍基地の再編強化を押し付け、憲法改悪をめざしてきました。そして、「軍事優先」の外交は、世界で孤立を深めました。国民は、この政治に愛想を尽かしたのです。



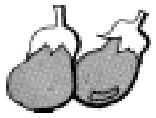
見過ごせない、民主党の危険な政策

民主党は300議席を超す議席を得ましたが、それは「自公政治ノー」の風を集めたためで、国民が民主党に全面的支持を寄せたのではありません。むしろ、その政策や路線に不安を抱いていることは、選挙中やその後の世論調査などでも明らかです。

民主党の安保・外交政策には、①国連の名による武力行使も含めた海外派兵を推進する。②海賊対策の名による自衛隊海外派兵を容認する。③憲法改正論議をすすめる…など、平和を願う国民として見過ごすことのできない大きな問題が含まれています。

また、衆議院選挙制度の比例定数を大幅削減するとの政策も、いまでも大政党に有利な選挙制度を、いっそう不公正で、多様な民意が反映できないものに改悪するものです。

こうした憲法と平和に対する攻撃を許さないために、民主党を中心とした政権の動きを厳しく監視し、草の根からの平和運動をいっそう強めましょう。



改憲派議員集団が大量落選 139⇒53に激減

(数字は人数)	08年3月	今回総選挙後
自民	122	39
公明	1	1
民主	10	9
その他	6	4
計	**139**	**53**

自民・公明・民主などの超党派の国会議員でつくる「新憲法制定議員同盟」所属の衆議院議員が、総選挙で大量落選し激減しました。